

堤体修理

2018年12月15日

昨年の4月、数年間に渡り草原状態だった井堀の下池（6,885 m²） 垵部分を修理して溜池に戻しました。

その時は、僅かな水の動きを追い・水道を予測して掘っていくと、お風呂の半分位の空洞を見つけました。粘土はなく、近場で入手できるのは池の底にたまった水分を多く含んだへドロ状の土壌のみでした。大穴を塞ぐのは無理と判断して、名東土木さんに修理依頼をしました。直ぐに動いて頂き、モルタルを投入、何と3 m³ 我々が発見した穴の20倍くらいの穴が繋がっていました。

結果的に数年ぶりに池に戻りました。しかし、満水時1m強の深さになる所、60 cm位の水深以上に水位が上がりにませんでした。水の流れを観察して、もれ場所を特定、田んぼのオフタイムに修理を行いました。



穴の掘り初め



穴は続く 粘土ではない、サラサラの山土

穴を追って掘っていくと結構な太さで続いています。土は山土で粘土では有りません、恐らく中央にある遮水層まで掘って、粘土を詰めれば完璧と思います。しかし、粘土は無く、中央まで掘り進むだけのパワーも有りません。ある程度掘った所で止め、土で出来るだけ厚く塞ぐことにしました。少し土を積んでは自作のタコで突き固める事を繰り返し穴を埋めました。粘土ではないので又漏れる事になります。数年持ってくれればと祈るばかりです。



穴埋めが成功すれば、今年の夏の様な少雨でも十分棚田に水を供給する事が出来ると思います。

<http://sizen.ciao.jp/news/report180813.pdf>

最初の写真の（左上）堤体上のコナラの木根が遮水層を突き破ったと推測しています。今更と言う感はありますが、これ以上大穴を開けられないように切って頂こうと（チェーンソウはボランティアは使用禁止です）思っています。



作業中にもう一つ穴を見つけ、同様に処理しました